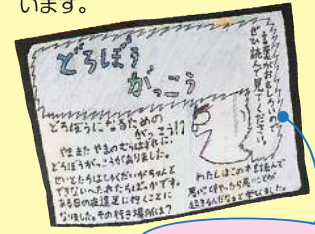


## 今も受け継がれる かこさんの思い

区内にある下平間小学校では、2年前にかこさんの作品を取り上げた特別授業を行い、子どもたちがそれぞれ好きな絵本の紹介ポップ（PR 広告）を作りました。同じ本を読んでも、感想は一人一人違います。かこさんの「子どもは一人一人個性を持っており、みんな違うのが当たり前」という考えがまさに形として現れています。



言葉が面白い



みんなが笑顔になれる絵本

## かこさとしさんの本の紹介



下平間小学校の特別授業で制作した絵本紹介ポップの一部

## セツルメント活動の思い出

私は小学生の時にかこさんの子ども会活動に参加していました。かこさんはドがつくほどの近眼で、常にベレー帽をかぶっていた姿を今でも覚えています。一緒に絵を描き、人形劇で使う人形を作り、当時は物の無い時代だったから身近な物を使った工作など、色々な遊びをしました。

かこさんは私たちがふざけていても決して怒鳴りつけることはせず、ほめるときも叱るときもいつでも子どもと同じ目線で接してくれました。だから、多くの子どもたちに好かれていたんだと思います。

かこさんと色々なものをつくったことで「自分で物事を考え、行動する力」が養われ、後にもづくりの仕事に就きました。今でも何かをつくるのが大好きで、こども心に感じた「ものを創り出すことの楽しさ」が人生の原点の一つになったと感じています。



一番左がかこさん、右から3番目が吉田さん

幸区古市場在住の  
吉田さんに語って  
いただきました。

## かこさとしさんの活動は 科学の普及啓発の原点

この本の巻頭では、かこさんのセツルメント活動について30ページに渡り特集されています。川崎に住んでいた頃のかこさんの活動や思いについて、より詳しく知りたい方におすすめの1冊です。

また、この本の監修者である藤嶋昭氏は科学者でもあったかこさんと親交が深く、さまざまな分野に渡り科学絵本を熱心に描き上げたかこさんのように、子どもたちが科学の面白さを知り、科学の世界に興味を広げてほしいという思いが込められています。



科学をもっとおもしろく  
(2019年、学研)

藤嶋 昭氏

川崎市在住、2018年に川崎市名誉市民賞受賞。光触媒研究の第一人者。光触媒について、子どもでも分かりやすく学べるよう「太陽と光しよくばいものがたり」をかこさんと共著。



## 幸図書館特集コーナー

幸図書館では、以下の期間で「かこさとし特集コーナー」を設置します。かこさんの絵本も多数ご用意しておりますので、この機会にぜひ読んでみてはいかがでしょうか。

期 間：3月18日（水）～4月19日（日）  
場 所：幸図書館内



だるまちゃんとかみなりちゃん  
(2016年、福音館書店)

## 絵本紹介ポップを募集 - 5名の方にグッズプレゼント -

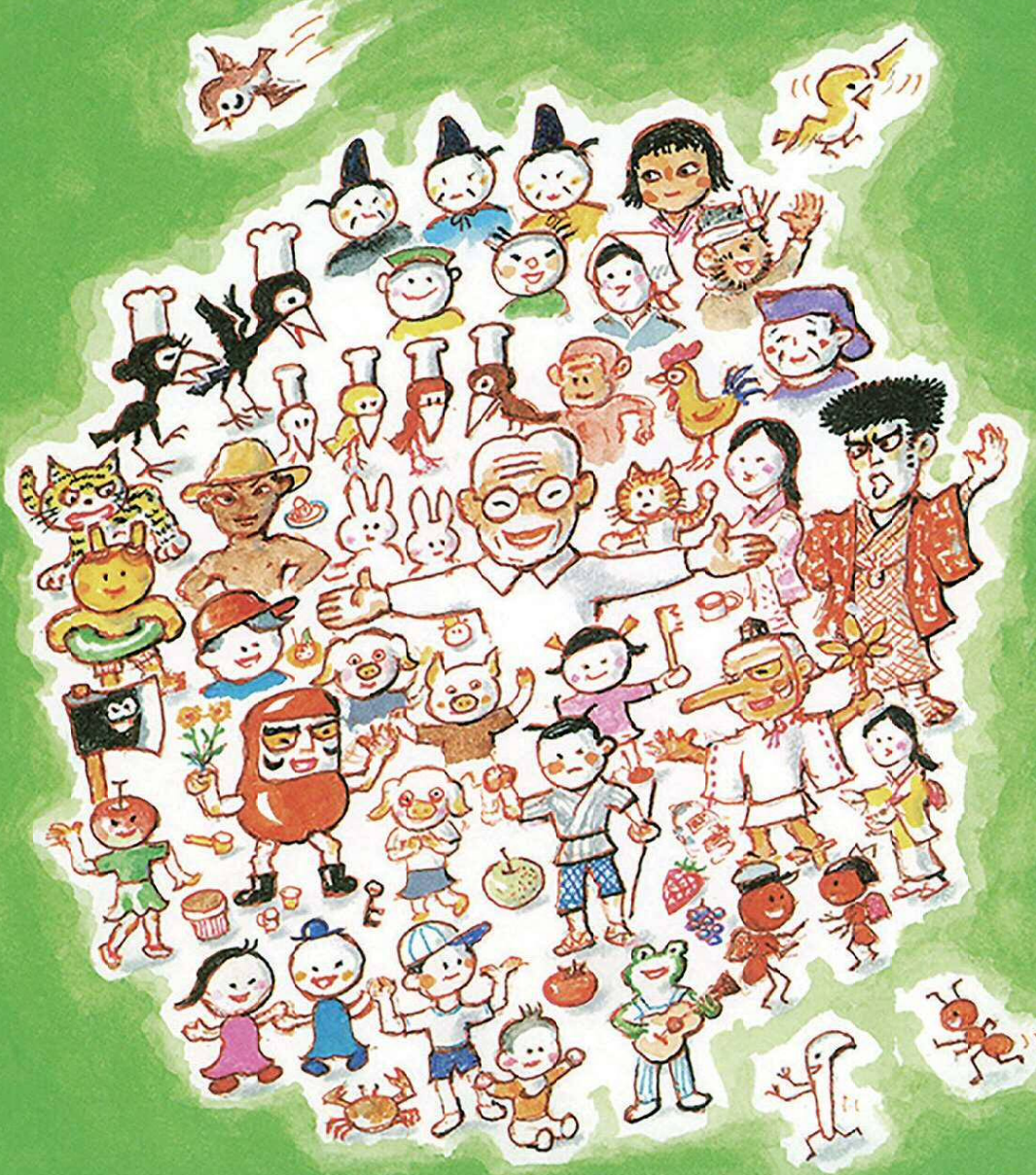
かこさとしさんの絵本を紹介するポップを大募集！応募頂いた方の中から抽選で5名の方に、かこさんの作品をモチーフにしたかわいいグッズをプレゼントします。



作品規定：様式自由  
募集締切：5月8日（金）  
応募方法：作成したポップと、住所・氏名・電話番号を書いた紙を同封の上、郵送または直接窓口までお持ちください。  
応募先：〒212-8570 幸区戸手本町1-11-1 幸区役所企画課  
※応募頂いた作品は返却いたしません。  
また、区役所等で応募作品全てを展示させていただきます予定。  
※抽選結果は賞品の発送をもってかえさせていただきます。  
※写真はイメージです。実際のプレゼント賞品は異なる場合がありますので、ご了承ください。  
※詳細についてはお問い合わせください。  
Tel：044-556-6612 幸区役所企画課

Colors, Future!  
いろいろって、未来。  
川崎市

# さいわい 広報特別号



## 特集 かこさとし

～大切なことは、すべて子どもたちから教わった～

© 2014 かこさとし  
「未来のだるまちゃんへ」(文藝春秋)

協力・写真提供／加古総合研究所・北野書店  
公益財団法人 東京応化科学技術振興財団

2018年、92歳でこの世を去った日本を代表する絵本作家・かこさとしさん。かつて幸区に住んでいたことをご存知でしょうか。今もなお子どもたちの世界で生き続けている作品創作の原点となった幸区での活動と、作品に込められた子どもたちへの情熱の一端を本紙でお届けします。

発行・編集  
幸区役所まちづくり推進部企画課  
〒212-8570 川崎市幸区戸手本町1-11-1  
Tel 044-556-6612 Fax 044-555-3130  
ホームページ：http://www.city.kawasaki.jp/saiwai/  
**2020年(令和2年)3月**



# かこさん ゆかりの場所を 歩いてみよう

20代の頃、かこさんは幸区でのセツルメント活動に力を注いでいました。休みの少ない中、仕事のあと、夜遅くまで紙芝居を手作りし、日曜日には三角広場（現在の古市場第2公園）などで子どもたちに披露していました。

「だるまちゃんとなぐちゃん」「からすのパンやさん」など、子どもたちを夢中にさせる作品の原点がかこ幸区にあったのです。ゆかりの地を歩きながら、当時のかこさんが見た風景と空気に思いを馳せてみませんか。

## かこさんの原点

### 幸区でのセツルメント活動

幸区への転居をきっかけに、川崎セツルメントとして子ども会活動を始めました。当時の古市場は工場労働者が多く昼夜問わず働いていたため、子どもの面倒を見てあげられない家庭もあり、かこさんの活動は子どもたちの大切な遊び場となっていました。子ども会では、童話、幻灯、絵描き歌などさまざまな遊びを一緒に行いました。中でも紙芝居には力を入れており、仕事の合間を縫い、週末は徹夜で紙芝居を作り上げていました。この時の紙芝居が、後に絵本となった物も数多くあります。また、子どもたちを多摩川や夢見ヶ崎公園に連れて行き、自然の中で遊ぶこともありました。

#### セツルメント活動とは

地域の住民と触れ合いながら生活の向上を目指す社会福祉活動のひとつ。戦後の混乱期における市民生活を、医療、衛生環境、教育など多方面にわたり多くのボランティアが支援した。

© 1967 かこさとし

絵巻じたて ひろがるえほん  
かわ (1977年、福音館書店)

源流から海までの川の旅を綴った絵本。全体が一望できるじゃばら折りで全長7メートルの絵巻版もあるユニークな絵本としても知られる。幼い頃の福井の川の記憶や子どもたちとよく遊んだ多摩川への特別な思いからこの作品が生まれた。



かこさんが描いた「ガス橋の風景」  
(1950年代)



●昭和電工中央研究所  
かこさんの職場

●セツル診療所

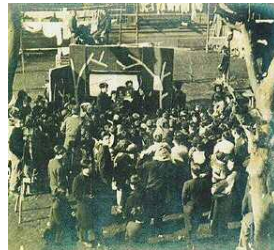
●カコ住宅

●三角ひろば

●セツル・ハウス



セツルメントハウス（一番右がかこさん）子ども会活動の拠点として自費で借りていた。



三角広場での紙芝居の様子  
(現在の古市場第2公園)

## 1950年代の 古市場周辺地図

地図はかこさとしさん直筆

## かこさんのメッセージ

大切なことは、すべて子どもたちから教わった

子どもたちの現場にいたことが、  
僕の作品づくりの土台になった  
ことは間違いありません。

活動を始めた頃、これなら大ウケするだろうと描き上げた自信作は、子どもたちの興味を全くひきませんでした。子どもたちの心をつかむため、教育の本を読んでみても、結局答えは見つかりません。そこで、目の前の子どもたちをよく観察して、直接学び取るしかないと考えました。

遊びの中で発揮される、  
未知数で意外性に満ち溢れたエネルギーこそ、  
それぞれの子どもが持っている生きる力、可能性そのものです。

子どもたちは未熟ながらも、自分で見つけた好きなものに対してものすごい力で突き進む力を秘めており、それはまた一人一人が自分の好みや判断を持って行動しているということ、川崎の子どもたちが教えてくれました。

### 子どもの自発性を 伸ばしてやりたい

セツルメント活動の経験を基に、絵本を通じて、子どもたちが自身の個性や可能性に気づき、自ら成長していくためのきっかけを作るお手伝いをしたいと思うようになりました。

かぶパン／パイナップルパン／さざえパン／トンボパン／おまめパン／おかまパン／かびんパン／ペンギンパン／ぶどうパン／かにパン／きつねパン／チューリップパン／テレビパン／いちごパン／じどうしゃパン／うさぎパン／のこぎりパン／あひるパン／てんとうむしパン／かばパン／てんぐパン

セント！



かこさとし  
(1926～2018)

現在の福井県越前市生まれ。東京大学工学部応用化学科卒業。工学博士。技術士(化学)。絵本作家。川崎市文化賞をはじめ、菊池寛賞など数々の賞を受賞。大学卒業後昭和電工に入社し、24歳の時に幸区に転居。川崎セツルメント活動に参加し、『だむのおじさんたち』で絵本作家デビュー。『だるまちゃんとなぐちゃん』『わっしょいわっしょいぶんぶんぶん』『どろぼうがっこう』『からすのパンやさん』など600点余りの作品をのこした。2018年川崎市市民ミュージアムにて「かこさとしのひみつ展」が開催された。

## かこさんの手法

### ものづくり

かこさんはたくさんのパンを一気に見せるような「ものづくり」とよぶ手法をよく使います。  
これは、子どもたちの豊かな個性や多様性を表現したものです。



© 1973 かこさとし



#### からすのパンやさん

(1973年、偕成社)  
森のからすのパンやさんは、子どもたちの意見を参考に、すてきな形のパンを焼きます。絵本に登場するパンはなんと84種類！ここで紹介した以外にもおいしいパンがいっぱい。

